令和４年度 公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー 事業報告

はじめに

令和４年度は、新型コロナウィルス感染症（以下「コロナ」という。）の行動制限の緩和や、水際対策の見直しなどによる旅行意欲が高まる中、自然豊かな海辺のエリアを活用した歩く観光コースや地産地消メニューの開発などの観光コンテンツの造成や、福岡型ワーケーション、修学旅行等による周遊観光の促進に取り組んだ。

ＭＩＣＥについては、コロナ禍を経て変化したニーズに対応するべく、支援メニューの充実化や、ＳＤＧｓの視点を取り入れたコンテンツ開発等を行い、ポスト･コロナ時代を見据え、福岡市が開催地として選ばれるための魅力を高める取組みを行った。

１　福岡の魅力づくり

福岡市の食、歴史、文化、祭り、自然などの観光資源を活用した魅力づくりを推進するとともに、来福者のニーズを把握しながら、地域と連携した受入環境の向上に取り組んだ。

(1) 歴史資源を活かした観光振興

歴史資源を活かした体験型プログラムの造成、まち歩きの企画・実施、観光情報の発信などを行った。

①　歴史資源を活用したまち歩きコースの企画・実施

歴史資源などの活用に加え、新たなスポットの開拓など多様なニーズに応えるまち歩きコースの開発を企画・実施した。

ア　まち歩きコース（募集分）　〔 17 回、参加者数　394 名〕
イ　まち歩き（ガイド派遣）　〔174 回、参加者数 1,689 名〕
ウ　オンラインまち歩き　〔 2 回、参加者数　200 名〕

＜まち歩き（香椎宮）＞

＜まち歩き（承天寺）＞

＜オンラインまち歩き＞

②　福岡市観光案内ボランティアの運営〔登録数：51 名〕

観光案内所（天神）や「博多町家」ふるさと館での観光案内や SNS での情報発信等を実施した。

③　観光情報の発信

観光情報サイト「よかなび」での観光スポットやイベント情報の発信を行った。

〔イベント等：367 件〕

④　体験型観光の振興

ア　地域・事業者と連携した体験型観光コンテンツの販売

〔福岡城でのドローン空中記念撮影　利用者数 7 組（17 名）〕

イ　「まゆの館」の運営〔利用者数 1,766 名〕

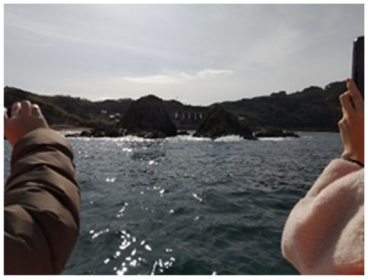
ウ　「御城印」の販売
〔販売数 6,163 枚(紙)、1,372 枚(クリア)〕
エ　「古地図」の販売〔販売数 12 枚〕※3 月 24 日販売開始
オ　福岡おもてなし武将隊の活動〔14 回〕

＜福岡城クリア御城印＞

⑤　**海辺を活かした観光振興事業（Fukuoka East＆West Coast プロジェクト）**

志賀島・北崎エリアの観光振興・活性化を推進する取組みとして、地域資源を活用した観光コンテンツの造成等・受入環境整備を助成し、北崎地区の歴史風土や暮らしを歩きながら五感で感じる体験（ルーラルウォーク）や、地元食材を使った新たな地域限定のおもてなしメニューの開発を行った。
〔志賀島地区：5 コンテンツ、北崎地区：4 コンテンツ〕

＜北崎ルーラルウォーク＞


＜遊漁船体験＞

(2) 祭りの振興

本市の貴重な観光資源である「博多どんたく港まつり」の運営や、「博多祇園山笠」など祭りや文化的行事の継続的な振興のための支援を行った。

(3) 福岡検定の実施

福岡市、福岡商工会議所とも連携を図りながら、福岡検定を実施するとともに、まち歩きイベントなどを開催し、市民のおもてなしの心の醸成と向上を図った。

	申込者数	受験者数	合格者数
令和３年度	657 名	626 名	414 名
令和４年度	416 名	397 名	224 名

(4) 受入環境の向上

来訪者が安全安心かつ快適に過ごせる受入環境の整備に取り組んだ。

①　**観光案内所（天神・博多駅）の管理・運営**

（　）内は対前年度比

	利用者数	うち外国人
博多駅	231,956 名（215.6%）	41,099 名（1,869.0%）
天神	110,706 名（183.3%）	3,540 名（1,149.4%）

② 観光案内機能強化（リモート観光案内システム）

デジタルを活用した非対面･非接触によるリモート観光案内を市内 4 か所で実施した。

〔設置場所：ライオン広場、福岡国際会議場、博多駅総合案内所、福岡空港〕

〔利用者数：計 1,616 名〕

③ ウェルカムサポーターの運営

ア 博多旧市街英語ツアーガイドを養成（20 名）し、11 月から福岡城及び博多旧市街の英語ガイド事業を開始。〔利用実績：5 件、26 名〕

イ 外国クルーズ客船受入時にクルーズセンター及び市役所で観光案内を行った。

ウ 外国クルーズ乗船客に向けに博多旧市街でのツアーや定点案内（櫛田神社、東長寺）を行った。

＜博多旧市街ガイド＞

＜福岡城ガイド＞

④ 観光サービス業従事者向け研修の企画・運営

旧高宮貝島家住宅、高宮南緑地視察、及び博多どんたく講座、世界水泳についての講義を行った。〔実施日：3 月 15、16 日、参加者数 計 44 名〕

＜従事者研修（どんたく講座）＞

＜従事者研修（貝島家住宅）＞

⑤ 観光ガイドブック等の発行

ア ガイドブック〔7 万部（日本語 5 万部、英語 2 万部）〕

イ マップ 〔7 万部（日本語 5 万部、英語 2 万部）〕

2 観光客の誘致・受入

地域や関係団体・機関と連携し、国内外からの観光客の誘致を促進した。

(1) 修学旅行・バスツアー等による周遊観光の推進

都市圏を含む周遊観光を推進し、観光産業の活性化を図るため、市内に宿泊する修学旅行やバスツアーの受入れ等に取り組んだ。

① 修学旅行・バスツアーに係る交通費（貸切バス）の支援

ア 修学旅行 〔利用実績：144 校、526 台〕

イ バスツアー〔利用実績：325 台、9,187 人〕

② 修学旅行・校外学習における「体験学習プログラム」への参加費支援

〔利用実績：108 件、8,435 名〕

③ 修学旅行専用サイト等による情報発信

(2) 福岡型ワーケーション推進事業

ワーケーションに興味・関心を持つ企業・個人をターゲットとして、自由度の高い旅ナカの滞在支援ツールの提供や、ビジネス機会に繋がる来訪企業と地元企業とのマッチングイベント開催等に取り組んだ。

① ＷＥＢアプリ「ワフパス」の開設

パス登録会員に対する会員限定の宿泊プランや、ワークスペースや観光施設で利用できる特典提供等を開始 (7 月～)

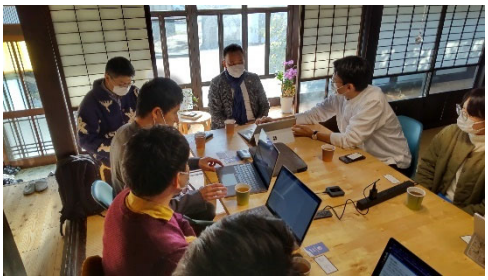
② 福岡ワーケーションフェスの開催

ワーケーションによる新たな働き方、過ごし方の体験、ビジネスマッチングの場となるイベントを開催

③ ワーケーション専用サイトによる情報発信

専用サイト「W@F」により市内ワーケーションスポットや滞在中の過ごし方を発信

④ ワーケーションに共同で取り組む企業・団体（パートナー）との連携や情報交換の場などの機会を提供 〔パートナー 186 社〕



＜福岡型ワーケーション＞

(3) 多様な連携

福岡都市圏や県内の団体、九州各都市や広域観光団体等との連携による共同誘致活動などを行った。

① 福岡地区観光協議会、福岡県観光連盟、九州観光機構など観光団体等との連携

② 姉妹協会等団体との交流連携

＜第２回日本観光ショーケース＞

３　ＭＩＣＥの誘致・支援

コロナの影響により増加した、対面とオンラインの組み合わせであるハイブリッド型ＭＩＣＥの開催を引き続き支援するとともに、回復の早い見本市のニーズに対応するなど、福岡でのＭＩＣＥ開催の機運醸成に努めた。

また、メールやオンライン会議等で代替してきたＭＩＣＥ関係者とのコンタクトを、積極的な対面型営業に切り替え、国内外での誘致活動を展開した。

(1) ポスト･コロナＭＩＣＥ支援事業

①　ハイブリッド開催支援等

コンベンションのハイブリッド開催に係るオンライン配信経費等の支援に加え、新たに、ＳＤＧｓ達成に貢献する取組みに係る経費も対象とし、配付物のデジタル化や地元食材の弁当配付（地産地消)、公共交通機関の活用などＭＩＣＥ開催におけるＳＤＧｓの取組みを支援した。

〔交付件数：102件〕

②　ミーティング・インセンティブツアー支援

リアル開催が前提であり、参加者一人あたりの消費額が、他のイベントに比べて高い傾向にあるミーティング・インセンティブツアーについて参加者の市内宿泊を一部助成することで、開催の促進及び観光・ＭＩＣＥ事業者の需要回復に取り組んだ。

〔交付件数：11件〕

③　見本市等開催助成金

商談・新規開拓の場として対面での開催を重視する見本市や展示会は規模が大きく需要回復も早いことから、本市で初開催される見本市等を対象に、規模に応じた施設利用料の補助を創設し、ポスト･コロナにおける開催誘致につなげた。

〔交付件数：5件〕

④　コンベンションパス実証

市内で開催された大規模学会において、参加者の市内周遊の促進や利便性・満足度の向上を図る取組みとして、試験的に乗車券の配付・行動履歴調査を行った。

〔対象者7,826名〕

(2) ポスト･コロナＭＩＣＥ誘致強化事業

①　インセンティブツアー等の誘致強化

市場別オンライン商談会に参加し、旅行会社と商談を実施した。

展示会名	期間	場所	商談件数
JNTO 韓国 インセンティブ商談会	8/24	オンライン	9 件
JNTO ベトナム インセンティブ商談会	9/14	オンライン	7 件
JNTO インドネシア インセンティブ商談会	10/26	オンライン	7 件
JNTO 台湾 インセンティブ商談会	11/14	オンライン	5 件
JNTO シンガポールインセンティブ商談会	11/16	オンライン	5 件
JNTO マレーシア/フィリピン インセンティブ商談会	1/17	オンライン	8 件
合　計			41 件

②　オンラインＦＡＭトリップ（視察ツアー）の実施

ポスト･コロナにおける誘致に向け、海外の旅行事業者等のＭＩＣＥ関係者を対象にオンライン配信による視察ツアーを実施。動画による疑似体験を通じて福岡の観光情報や、ＭＩＣＥ施設、最新の体験コンテンツなどの情報を紹介することで、ＭＩＣＥ開催地としての福岡をＰＲした。

〔開催日：1 月 31 日、視聴（リアルタイム）：世界 16 ヵ国/地域 163 名〕

＜オンラインＦＡＭトリップ＞

③　サステナブルな体験コンテンツの開発

環境や地域に配慮したサステナブルツーリズムは世界的に関心が高く、ポスト･コロナのＭＩＣＥの需要獲得に向け、サステナブルな体験コンテンツの充実に取り組んだ。

従来のジェンダーに囚われず、参加者が好きな色や模様の着物を着用できる“インクルーシブ（包括）”な着物体験や、持続可能な生産消費に向けた八女茶の様々な楽しみ方を伝える体験等、ＳＤＧｓの目標達成に寄与する体験コンテンツを 5 件開発し、既存の体験プログラムガイドの記載内容と合わせ、合計 41 件のコンテンツを紹介する「福岡ＭＩＣＥ体験プログラムガイド」を発行した。

〔新設サステナブルコンテンツ 5 件、掲載総数 41 件〕

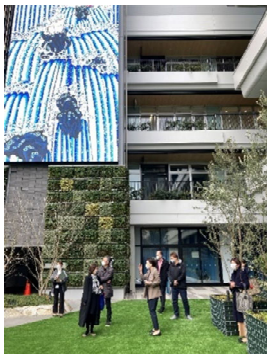
＜福岡ＭＩＣＥ体験プログラムガイド＞

＜八女茶・茶歌舞伎＞

＜着物体験＞

④　観光庁「海外からのインセンティブ旅行誘致に関するコンベンションビューロー等機能高度化事業」

観光庁からコンサルタントとして派遣された海外に発信力があるインセンティブツアーの国内専門プランナー6 名に、誘致に向けたＦＡＭトリップ（視察ツアー）として、会場施設、体験コンテンツ等を視察してもらい、専門的な知見からアドバイスを受け各プログラムの磨き上げを行った。〔実施期間：2 月 28 日～3 月 2 日〕



＜アートバー体験（福岡市植物園）＞

＜大名ガーデンシティの視察＞

＜組子体験（大濠テラス）＞

(3) コンベンションの誘致

学会・大会の事務局やキーパーソンなどＭＩＣＥ主催者に対し、オンラインも含めたセールス活動を実施し、国内外のコンベンションの誘致を行った。

〔開催決定件数〕

	国内コンベンション（参加者1,000名以上）	国際コンベンション
令和３年度	38件	14件
令和４年度	57件	30件

＜第 27 回アジア太平洋リウマチ学会議「JNTO 国際会議誘致貢献賞」受賞＞

① コンベンションの誘致活動

ア　福岡市内・首都圏等での主催者向けセミナー開催や個別営業

・九州大学伊都キャンパスで『ＭＩＣＥ相談デスク』実施

・九州・沖縄地区コンベンション推進団体連絡会合同ＭＩＣＥセミナー・商談会の開催〔「九州＆沖縄合同 MICE 商談会 in Tokyo2022」実施日：9 月 7 日、会場：秋葉原ＵＤＸギャラリー、来訪者数：49 団体 83 名〕

＜九州＆沖縄合同ＭＩＣＥ 商談会 in Tokyo2022＞

イ　ＭＩＣＥ主催者等の招聘、国内外キーパーソンへのセールス

・APIC-IST（アジア太平洋科学技術国際会議）や SWTest Asia（ソフトウェアテスト

アジア)、ISHA（国際股関節温存学会）の主催者を迎えてセールス活動を行い、福岡市でのＭＩＣＥ開催が決定した。

・首都圏や関西圏にて学会本部や旅行会社等に対しセールス活動を行った。

②　ＭＩＣＥ見本市・商談会への参加

国内外のＭＩＣＥ見本市・商談会に参加した。

展示会名	期間	場所	商談件数
IT&CM ASIA 2022	9 月 20 日～22 日	バンコク(リアル)	28
Visit Japan MICE マート	9 月 22 日～24 日	東京(リアル)	34
シンガポール国際会議商談会	11 月 16 日	オンライン	3
IBTM World 2022	11 月 29 日～12 月 1 日	バルセロナ(リアル)	29
合　計			94 件

＜IT&CM ASIA 2022 ＞

③　地元学術界・産業界とのネットワーキング

大学が開催する国際会議に出張ＭＩＣＥ相談デスクを設置した。また、経済界とのさらなる連携を目的としたイベントを実施した。

ア　MIRAI2.0 Research & Innovation Week2022 にて出張ＭＩＣＥ相談デスクを設置
〔開催期間：11 月 15 日(火）～18 日（金）、会場：九州大学伊都キャンパス〕

イ　日仏経済サステナブルフェア開催〔実施日：5月24日、会場：電気ビル共創館〕

④　マーケティング活動

ミーティング・プロフェッショナルズ・インターナショナル（ＭＰＩ）、国際コンベンション管理協会（ＰＣＭＡ）、インセンティブ旅行協会（ＳＩＴＡ）、国際人材交流協会（ＨＣＡ）、国際会議協会（ＩＣＣＡ）といった国際ネットワークを活用し、情報収集や営業活動を行った。また、Facebook、LinkedInなどのSNSを活用し、情報発信を強化した。

(4) コンベンションの支援

主催者に対する会場・宿泊等の相談や、資料・物品等の提供、助成金制度など、コンベンションの事前準備段階から開催に至るまで、主催者のニーズに応じた支援・サービスを実施した。

①　国際・国内コンベンション開催助成金

開催地を検討中のコンベンションの本市への誘致を目的に交付

〔交付実績〕

	国内コンベンション	国際コンベンション
	（参加者1,000名以上）	（参加者50名以上）
	2日間以上の開催	
令和3年度	0件	0件
令和4年度	16件	5件

※対象経費：会場費、装飾費、報酬・謝金、広報費、運営事務費等

②　コンベンションサポート事業

主催者に対するＭＩＣＥ関連施設やＭＰＦパートナー・賛助会員の紹介・斡旋などのマッチング支援、助成金相談対応などを行った。〔サポート件数：102件〕

(5)　ＭＩＣＥ人材育成事業〔登録者数：114名〕

将来のＭＩＣＥ業界を担う人材の育成を図るため、大学生、短大生および専門学校生を対象に、ＭＩＣＥの基礎を学ぶセミナー、コンベンション施設の視察、会議運営の模擬体験、イベントの企画と運営体験、学会でのボランティア活動、国際交流・スポーツイベントでの活動等、15 プログラムを実施した。

＜セミナー＞

＜学会でのボランティア活動＞

(6)　関係機関・団体との連携

コンベンション関係機関・団体との緊密な連携及び関係強化を図ることにより、コンベンション誘致に係る情報収集や共同誘致活動などを行った。

①　観光庁、日本政府観光局（ＪＮＴＯ）との連携

ＪＮＴＯから学会のコンベンション開催に係る情報提供や支援を受け、国際会議団体への誘致提案書の提出や、国際会議におけるキーパーソンの招聘を行った。

②　九州各都市のコンベンション協会との連携

九州・沖縄地区コンベンション推進団体連絡会（九推連）の事務局を担い、初となる首都圏でのＭＩＣＥセミナー・商談会を企画し、実施した。

＜九推連実務担当者会議＞

４　情報発信・広報

戦略的な情報発信や、データの利活用を推進していくとともに、観光・ＭＩＣＥに関する情報の収集・分析を行った。

(1) 海外への情報発信

①　ＳＮＳの活用

②　海外メディアへの情報提供、取材支援

〔情報提供4件（アメリカ、シンガポール、台湾、フランス・フランス語圏）
取材対応1件（オーストラリア）〕

(2) 広報活動

①　財団ホームページによる情報発信

②　機関誌「オーシャンズ・フクオカ」の発行〔年4回、各2,500部発行〕

(3) マーケティング

宿泊などの統計情報や市場動向（観光・ＭＩＣＥ）の収集・分析を行った。

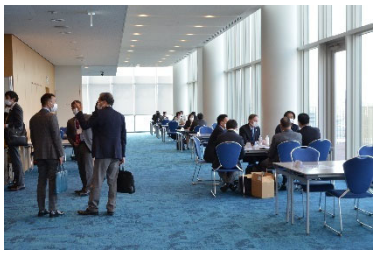
５　賛助会員・組織運営

賛助会員交流会の開催、会議・展示会の情報提供など会員の交流機会やサービスを充実させるとともに、新たな会員獲得に向けた取組みを行った。

(1) 賛助会員交流会等の開催

講演会、ビジネスマッチング、視察ツアー、ＰＲブースを実施した。

〔11 月 16 日福岡国際会議場、参加者数：約 150 名、ビジネスマッチング件数：約 61 件〕



＜ビジネスマッチング＞

＜視察ツアー（福岡おもちゃ美術館）＞

＜ＰＲブース＞

(2) 賛助会員サービスの提供

①　コンベンションスケジュールの作成、提供

②　メールマガジンの配信〔市の施策等の情報提供など〕

③　財団のホームページ、機関誌による会員ＰＲ・情報発信